

8— **プロローグ**

～上を向いて心の拍子木を打ち鳴らしながら～

第1章 衛星と出会い、衛星通信事情の調査に世界各地へ

- 12— 1. 「アラブサット」衛星との出会い
- 16— 2. 決意と共に新天地に挑む
— 住友商事での新しい挑戦
- 23— 3. 転機をもたらした「中東・欧州地域、通信・放送衛星調査団」
- 27— 4. 貴重な「中東・欧州地域、通信・放送衛星調査団」出張報告書
- 30— 5. 「欧州 VSAT システム調査団」で学んだこと
- 34— 6. 「VSAT1990」会議の3つのお土産
— スイスのロイク・テレポート、SES、フランスのユーテルサット
- 36— 7. 「小が大を制す」
— ルクセンブルグで学んだレッスン
- 40— 8. 「情報通信プレティン(ISCSC プレティン)」の思い出

第2章 日本の衛星ビジネス立ち上げに奔走

- 44— 1. 総合商社の戦場と化した衛星通信業界
- 46— 2. サテライトジャパン(SAJAC)に向向
- 49— 3. 日本サテライトシステムズ(JSAT)が誕生
- 53— 4. JCSAT-3の思い出
— 宇宙でのパラリンピック長距離走に挑んだ衛星
- 62— 5. JCSAT-4、JCSAT-5、JCSAT-6、JCSAT-7の思い出
 - 5-1. JSATの「救世主」となったJCSAT-4
 - 5-2. JCSAT-5は、アメリカとフランスの「ミックス衛星」
 - 5-3. 衛星放送初期時代の「申し子」となったJCSAT-6
 - 5-4. JCSAT-7は「仲良し衛星」

第3章 「宇宙の衛星」への飽くなき好奇心のままに…

- 71— 1. 『2つのマジックボックス』の出版
- 75— 2. アルカディア・アソシエイツ社のエグゼクティブ・コンサルタント時代
- 78— 3. 衛星システム総研の代表として独立
- 82— 4. 驚異的な躍進を続けるルクセンブルグのSES社
- 85— 5. ブータンとモンゴルを初訪問
- 5-1. 隣国インドより日本を選んだブータン
 - 5-2. モンゴル衛星の夢は叶うのか
- 96— 6. アジアのダークホース
- シン・サテライト社とミアサット社
 - 6-1. アジアで衛星放送と衛星ブロードバンドを牽引したシン・サテライト
 - 6-2. アジアからアフリカ市場への進出を目論むミアサット
- 107— 7. スカパーJSATの拠点にもなっているハワイ・パシフィック・テレポート
- 111— 8. ユニークな進展を見せたインドネシア、韓国、香港
- 8-1. アジアのパイオニアとしてのインドネシア
 - 8-2. 日本に追いつけ、追い越せの韓国
 - 8-3. アジアにおける「衛星トライアングル」の一角を担う香港
- 122— **エピソード**
- ～人生は「目標と基盤と方法のマジック」～
- 126— **資料編**
- 「世界の衛星通信・衛星放送業界の現状と動向」2002年～2011年
（『衛星通信ガイドブック』より抜粋）

プロローグ

～上を向いて心の拍子木を打ち鳴らしながら～



1984年の夏、筆者は初めて「宇宙の衛星」と出会った。それまで何度も「坂の上の雲」を眺めたことはあるが、真剣になって「雲の上の衛星」にまで思いを馳せることはなかった。1957年に打ち上げられたロシアの「スプートニク1号」やその翌年にアメリカが投入した「エクスプローラー1号」の快挙については、高校・大学時代のかすかな記憶として残ったままである。

1962年に住友商事に入社して、国際営業に携わる商社マンになったので、飛行機には数えきれないほどたくさん乗ったが、その遙か上を周回する「宇宙の衛星」にまで考えをめぐらすことはほとんどなかった。あえて言えば、サンフランシ